

平成23年10月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年3月1日

上場取引所 大

上場会社名 アイ・ケイ・ケイ株式会社  
 コード番号 2198 URL <http://www.ikk-grp.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長  
 四半期報告書提出予定日 平成23年3月16日

(氏名) 金子 和斗志  
 (氏名) 登田 朗

TEL 050-3539-1122

配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年10月期第1四半期の連結業績(平成22年11月1日～平成23年1月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年10月期第1四半期	2,705	—	142	—	127	—	36	—
22年10月期第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年10月期第1四半期	9.99	9.96
22年10月期第1四半期	—	—

(注) 当社は、第1四半期の業績開示を当連結会計年度より行っているため、平成22年10月期第1四半期の数値の記載及び前年同四半期との対比は行っておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年10月期第1四半期	12,118	4,966	41.0	1,342.40
22年10月期	13,510	5,016	37.1	1,355.91

(参考) 自己資本 23年10月期第1四半期 4,966百万円 22年10月期 5,016百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年10月期	—	0.00	—	23.50	23.50
23年10月期	—	—	—	—	—
23年10月期(予想)	—	0.00	—	23.50	23.50

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年10月期の連結業績予想(平成22年11月1日～平成23年10月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	5,850	△2.3	660	△25.0	620	△26.4	310	△35.8	83.80
通期	12,700	0.0	1,620	△4.5	1,520	△5.1	800	△5.1	216.25

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.4「2.その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

(注)当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

(注)簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注)「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 23年10月期1Q 3,699,500株 22年10月期 3,699,500株

② 期末自己株式数 23年10月期1Q 74株 22年10月期 74株

③ 期中平均株式数(四半期累計) 23年10月期1Q 3,699,426株 22年10月期1Q 一株

(注)当社は、第1四半期の業績開示を当連結会計年度より行っているため、平成22年10月期第1四半期の期中平均株式数については記載しておりません。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続を実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	4
(1) 重要な子会社の異動の概要	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) セグメント情報	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益の改善や個人消費の持ち直しなど一部で景気回復の動きがみられたものの、雇用情勢は依然として厳しく、デフレの長期化等先行きが不透明な状況で推移しました。

ウェディング業界におきましては、平成22年の婚姻件数が70万6,000組と推計され（厚生労働省「平成22年人口動態統計の年間推計」）、ゲストハウス・ウェディングの需要は底堅く推移しておりますが、専門式場やホテルのリニューアル、価格競争の激化、顧客ニーズの多様化等により、競合環境は一段と厳しさが増してきております。

こうした中、当社グループは、「お客さまの感動のために！」という企業信念に基づき、社内外での研修による営業力の強化やサービスの質の向上、自社開発の営業支援システムのバージョンアップ等に取り組み、当第1四半期連結累計期間の売上高は2,705百万円、営業利益は142百万円、経常利益は127百万円となりました。四半期純利益は、特別損失に資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額51百万円を計上し、36百万円となりました。なお、セグメント別の業績は次のとおりであります。

## ① 婚礼事業

婚礼事業では、一部の店舗において競合他社からの価格攻勢による影響がみられましたが、積極的な営業活動の推進により、売上高は2,615百万円、営業利益は131百万円となりました。

## ② 葬儀事業

葬儀事業では、売上高は89百万円、営業利益は10百万円となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

## ① 資産、負債及び純資産の状況

総資産は、前連結会計年度末に比べ1,392百万円減少し、12,118百万円となりました。これは主に、現金及び預金が1,549百万円、売掛金が176百万円それぞれ減少し、今期オープン予定の「キュービージュヌ フランセーズ ラ・チャンス」（富山支店レストラン）及び「ララチャンスベルアミー」（盛岡支店）の着工に伴う建設仮勘定の増加により、有形固定資産が352百万円増加したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ1,342百万円減少し、7,152百万円となりました。これは主に、資産除去債務を230百万円計上した一方で、買掛金が329百万円、長期借入金が341百万円、未払法人税等が671百万円それぞれ減少したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ49百万円減少し、4,966百万円となりました。これは、四半期純利益を36百万円計上したことと86百万円の期末配当を実施したことによるものであります。また、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ3.9ポイント上昇し41.0%となりました。

## ② キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ1,549百万円減少し、2,005百万円となりました。当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は968百万円となりました。資金増加の主な内訳は、税金等調整前四半期純利益80百万円、減価償却費198百万円、売上債権の減少額178百万円であり、資金減少の主な内訳は、仕入債務の減少額329百万円、法人税等の支払額655百万円のほか、その他に含めた未払金の減少額131百万円及び未払消費税等の減少額184百万円であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は160百万円となりました。これは主に、今期オープン予定の「キューイジーン フランセーズ ラ・チャンス」（富山支店レストラン）及び「ララチャンスベルアミー」（盛岡支店）の有形固定資産の取得による支出であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は420百万円となりました。これは、長期借入金の返済による支出341百万円、配当金の支払額78百万円であります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成22年12月14日に公表しました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。

## 2. その他の情報

### (1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

### (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

#### ①簡便な会計処理

##### 1) 一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第1四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

##### 2) 繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

#### ②四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

該当事項はありません。

### (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

#### 資産除去債務に関する会計基準の適用

当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、営業利益、経常利益がそれぞれ3,871千円減少し、税金等調整前四半期純利益が55,849千円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は229,367千円です。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成23年1月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年10月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,005,011	3,554,162
売掛金	137,357	313,982
商品	73,831	74,790
原材料及び貯蔵品	77,748	64,912
その他	155,836	212,985
貸倒引当金	△3,718	△7,830
流動資産合計	2,446,066	4,213,002
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,800,266	6,764,983
土地	1,578,983	1,578,983
その他（純額）	640,571	322,925
有形固定資産合計	9,019,821	8,666,892
無形固定資産	93,932	96,510
投資その他の資産	558,568	534,189
固定資産合計	9,672,322	9,297,592
資産合計	12,118,389	13,510,595
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	280,376	609,953
1年内償還予定の社債	70,000	70,000
1年内返済予定の長期借入金	1,194,420	1,249,172
未払法人税等	4,501	676,368
賞与引当金	83,025	149,438
その他	936,423	1,104,828
流動負債合計	2,568,745	3,859,760
固定負債		
社債	150,000	150,000
長期借入金	3,700,658	3,987,713
退職給付引当金	63,597	61,573
役員退職慰労引当金	194,626	195,322
ポイント引当金	43,667	42,101
資産除去債務	230,494	—
負ののれん	429	858
その他	200,061	197,167
固定負債合計	4,583,533	4,634,736
負債合計	7,152,279	8,494,496

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成23年1月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年10月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	336,568	336,568
資本剰余金	340,224	340,224
利益剰余金	4,289,384	4,339,374
自己株式	△67	△67
株主資本合計	4,966,109	5,016,098
純資産合計	4,966,109	5,016,098
負債純資産合計	12,118,389	13,510,595



## (2) 四半期連結損益計算書

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年11月1日 至平成23年1月31日)
売上高	2,705,196
売上原価	1,259,793
売上総利益	1,445,402
販売費及び一般管理費	1,303,062
営業利益	142,340
営業外収益	
受取手数料	1,733
負ののれん償却額	429
その他	1,136
営業外収益合計	3,299
営業外費用	
支払利息	16,192
その他	1,591
営業外費用合計	17,784
経常利益	127,854
特別利益	
貸倒引当金戻入額	4,896
特別利益合計	4,896
特別損失	
固定資産除却損	497
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	51,978
特別損失合計	52,475
税金等調整前四半期純利益	80,275
法人税、住民税及び事業税	4,225
法人税等調整額	39,102
法人税等合計	43,328
少数株主損益調整前四半期純利益	36,947
四半期純利益	36,947

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

当第1四半期連結累計期間 (自平成22年11月1日 至平成23年1月31日)	
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税金等調整前四半期純利益	80,275
減価償却費	198,070
負ののれん償却額	△429
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	51,978
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△4,896
賞与引当金の増減額（△は減少）	△66,413
退職給付引当金の増減額（△は減少）	2,024
役員退職慰労引当金の増減額（△は減少）	△696
ポイント引当金の増減額（△は減少）	1,566
固定資産除却損	497
支払利息	16,192
シンジケートローン手数料	249
売上債権の増減額（△は増加）	178,177
たな卸資産の増減額（△は増加）	△11,876
仕入債務の増減額（△は減少）	△329,577
その他	△410,598
小計	△295,454
利息の支払額	△17,096
法人税等の支払額	△655,919
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△968,470</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形固定資産の取得による支出	△158,314
無形固定資産の取得による支出	△1,289
その他	△470
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△160,073</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
長期借入金の返済による支出	△341,807
配当金の支払額	△78,800
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△420,607</b>
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△1,549,151
現金及び現金同等物の期首残高	3,554,162
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,005,011

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

当社グループの報告セグメントは、婚礼事業及び葬儀事業であります。葬儀事業の全セグメントに占める割合が僅少であり、開示情報としての重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

(追加情報)

当第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。